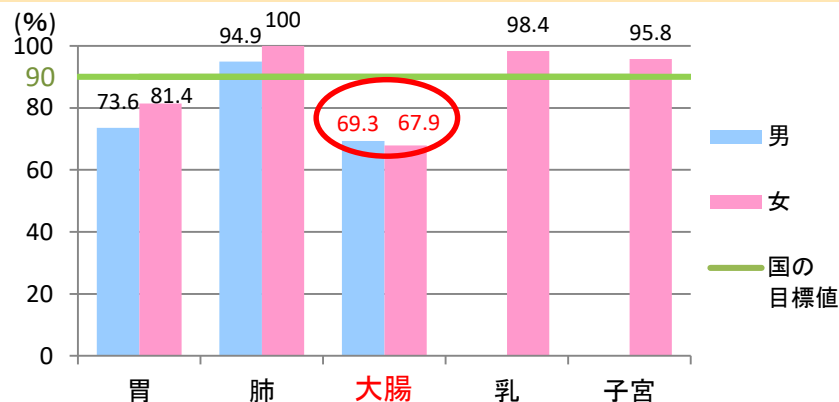


大腸がんの精密検査を必ず受けましょう！！

～早期発見のチャンスを逃さないために～

当院の人間ドック受診後に「がん」の精密検査を受けた方の割合 (2019年度)



左のグラフは、当院の人間ドック受診にて精密検査の対象となり、検査を受けた方の割合(精密検査受診率)を示しています。

国は、精密検査受診率の目標値を90%以上としています。胃がんと大腸がんは、国の目標値を下回っている状況です。

なかでも大腸がんについては、70%を下回っています。



大腸がんの精密検査は、どんな検査？



大腸がん検診の精密検査受診率が低いのは、なぜ？

辛そうだな～。
忙しいからな。

自覚症状ないからな～。

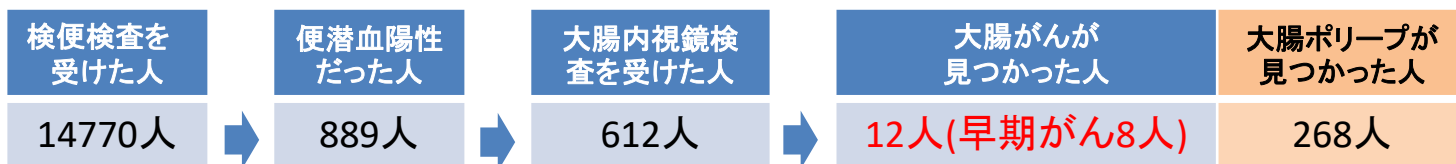


恥ずかしいわ～。
痔だと思います。

前に受けて
異常なかったなので、大丈夫です。

- でも…
- ◆早期のがんは、自覚症状がありません。
 - ◆麻酔を使って検査をする方法もあります！
 - ◆担当医師が同性となるよう、病院を選択する方法もあります。

当院の人間ドックにおける大腸がん検診精密検査の結果 (2019年度)



精密検査を受けた方のうち、大腸がんは12名見つかっています。うち早期がんは8名(67%)でした。また、大腸ポリープは268名見つかっています。大腸ポリープの中には、大腸がんとなる可能性がある腫瘍性ポリープも含まれますので、医師の指示に基づき定期的に検査を受けることが重要です。

便潜血を認めたら、必ず大腸内視鏡検査を受けましょう！！

大腸がんのステージ別
5年生存率(相対生存率)

	大腸がん
I 期	95.1%
II 期	88.5%
III 期	76.6%
IV 期	18.5%

左の表は、大腸がんの5年生存率を表しています。ステージ I 期(早期)で発見された場合の生存率は90%を超えています。更に、I 期で発見された場合は、内視鏡での治療も可能といわれており、体への負担も少なく済みます。しかし、がんが進行し転移してしまうと完治は難しくなります。

早期に病気を発見し、治療を開始できるかは、その後の生活や生き方に大きな影響を与えます。早期発見のチャンスを逃さないためにも、検診で一度でも便潜血を認めたら、必ず大腸内視鏡検査を受けましょう。